

# 岩脇でビワマスの 遡上を確認



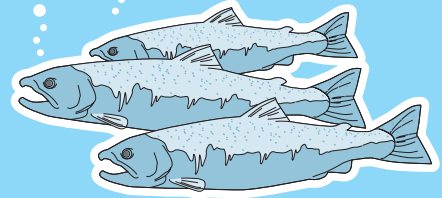
10月31日早朝、天野川岩脇地先にて。このビワマスは懸命にジャンプしていましたが、せきを乗り越えることができませんでした。

10月から11月にかけては、ビワマスが産卵のために河川を遡上する時期です。プロジェクト会議で天野川の遡上状況を調べたところ、岩脇地先までは遡上していることが確認できました。

プロジェクト会議では、これらのビワマスがより上流まで遡上できるように河川環境づくりを、市民のみならずとも検討していきたいと考えています。

なお、産卵繁殖を保護するため、10月から11月の間は県の規則でビワマスの採捕が禁止されているほか、年間を通じて全長25cm以下のビワマスや卵の採捕も禁止されています。もし捕まえた場合は放流して、ビワマスの産卵や成長を温かく見守ってください。

# ビワマス 通信 vol.2

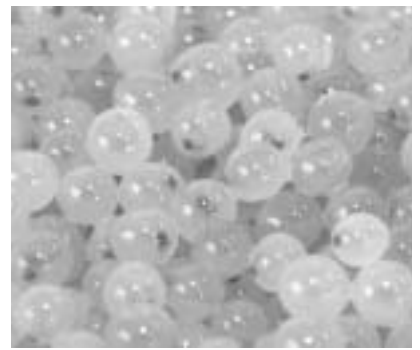


## 生物多様性の保全を進めるモデル事業

天野川に琵琶湖固有種のビワマスが遡上できる環境をつくってまちづくりを進めようと、市では県や関係機関とともに「天野川ビワマス遡上プロジェクト会議」を設置しています。

天野川ビワマス遡上プロジェクト会議  
事務局  
経済環境部 環境保全課(伊吹庁舎)  
☎58-2230  
☎58-1630

## 職員プロジェクト ふ化実験実施中



現在、市長・副市長をはじめ、市の職員が自宅の冷蔵庫を利用してビワマスのふ化実験に取り組んでいます。今回の実験結果をもとに、市内の小学校などへ取り組みの輪を広げていく予定です。

### ふ化実験の流れ

- ① 受精させたビワマスの卵をペットボトルの容器に入れます。
  - ② 容器ごと冷蔵庫に入れ、ふ化するのを待ちます。
- \* 冷蔵庫の温度が高いほどふ化するまでの期間が早くなります。



冷蔵庫(約5℃で45日程度)  
野菜室(約7℃で30日程度)

- ③ ふ化した稚魚はお腹に栄養を持ち、その栄養で50日程度かけて成長します。その期間を過ぎて自分でエサを食べられるようになると、水中を泳ぎまわるようになります。これを「浮上」といい、この頃には体長3cm程度に成長します。
- ④ 成長した稚魚を3月上旬に放流する予定です。稚魚は、琵琶湖で3年から5年成長した後、産卵のため天野川に戻ってきます。



## ビワマス 情報 募集中



「昔はここまでビワマスが遡上していた」といった思い出話や、「こんなビワマスの写真がある」といった情報を随時募集しています。お心当たりの方は事務局までご連絡ください。